

植 調 協 会 だ よ り

◎ 平成9年度事業及び会計の監査

平成10年5月11日(月), 平成9年度事業の実施状況・収支決算について, 当協会監事による監査を受け, 適正との結果を得る。

◎ 第72回役員会開催

平成10年5月20日(水), 植調会館3階会議室において第72回役員会が開催され, 次の議案につき承認を得た。

1. 役員人事

退任理事 上垣隆夫((財)日本植物調節剤研究協会)

“ 栗田年代((財)残留農薬研究所)

“ 鈴木博和(保土谷化学工業㈱)

“ 萩本 宏(武田薬品工業㈱)

新任理事 岩本 毅((財)残留農薬研究所)

“ 有澤成治(保土谷化学工業㈱)

“ 生津嘉朗(武田薬品工業㈱)

また、則武晃二(理事・研究所長)が常務理事に選任された。

2. 平成9年度事業報告及び決算報告

3. 平成9年度剰余金処分

4. 平成10年度事業計画及び予算

〔平成10年度事業計画〕

低コスト農業の確立に向け現状をふまえ, より安全, 低コスト, 省力技術を確立するために, 植物調節剤(除草剤, 生育調節剤)の開発利用を積極的に推進することを基本方針として, 次の重点研究課題, 調査研究事業を行う。

(1) ジャンボ剤の開発に関する研究(継続)

極めて省力的な散布が可能なジャンボ剤について, 更に開発を推進する。特に, 一発処理剤の普及に伴い多年生雑草が減少し, 一年

生雑草, ホタルイが主体となった現場水田を対象にして, 中干し等の水管理の現状に即した有効成分の組合せと成分量を検討したジャンボ剤の開発を推進する。

(2) 抑草剤の開発と利用に関する研究(継続)

水田畦畔を主対象として, その省力的な管理技術の確立を目的とした抑草剤の開発を, 植調研究所を中心に植調試験地と密接な連携を保ちながら推進する。特に植調研究所では新たに造成したモデル畦畔を用いて, 新規の抑草剤の選抜を行うと共に, 植生の変化等についても調査を行う。また植調試験地を中心に水田畦畔雑草の群落組成の実態について, 更に調査を行う。

(3) 薬剤の土壌中における行動に関する研究(継続)

薬剤の安全使用のための基礎的資料を得るため, 植調研究所の水動態施設を利用して, 水田土壌中における有効成分の動態と環境中への流出について検討を行う。

(4) 畑地用新混合剤の開発に関する研究(継続)

畑地における栽培法, 地域の雑草発生実態に即し, 適用草種が広く使いやすい混合剤の開発を推進する。

(5) 雑草の発生実態調査(継続)

①水田雑草の発生と管理についての実態調査

②水田畦畔における雑草群落組成とその管理についての実態調査

③畑地雑草の発生と管理についての実態調査

(6) 難防除雑草の徹底防除に関する研究(継続)

(7) 海外試験研究の推進

①国産植物調節剤の海外におけるスクリーニング(継続)

②海外の試験研究機関との技術交流(継続)

③中国雑草原色図鑑の作成(継続)

(8) 植物調節剤の永年使用による土壌, 作物, 微生物におよぼす影響に関する調査研究(継続)
〔平成10年度予算〕

(1) 公益事業会計	25,950千円
(2) 公益委託試験会計	1,443,200千円
(3) 収益事業会計	17,800千円
(4) 公益特別試験会計	20,653千円

◎ 人事異動

平成10年5月21日付

委嘱 技術顧問

上垣隆夫

平成10年5月31日付

退職 北海道支部長

仲野博之

平成10年6月1日付

委嘱 北海道支部長

藤村稔彦

トモノアグリカの除草剤

水稲用

チバガイギー

ホクト[®] 1キロ粒剤

クサライト[®] 1キロ粒剤

チバガイギー

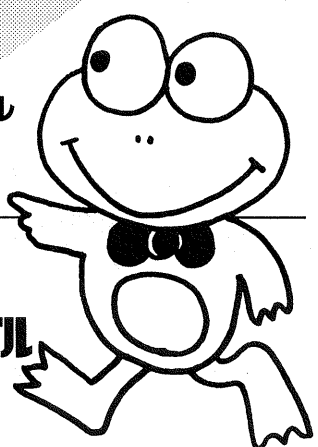
ユニハーブ[®] フロアブル

畑作用

ゲザン[®] フロアブル

ケザプリム[®]50・フロアブル

デュアル[®] 乳剤





株式会社トモノアグリカ

静岡市春日2丁目12-25

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188 (代)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 千坂英雄
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)

印刷所 新成印刷(有)

平成10年6月発行
植調第32巻第3号

定価420円(送料270円)
(本体400円, 消費税20円)